

吉田間税会会長賞

「時を超える税金」

安芸高田市立高宮中学校二年 山崎 悠生

僕たちの生活の中で、大切なものは何だろうと考えた時、ふと思いついたことがある。

小学一年生の時、僕はよく友達と家の近くの商店で買い物をしてきた。

十円ガムを買おうとして十円を払ったら「一円足りないよ」と店の人に言われた。十円と書いてあるのになんで十一円払わないといけないのだろうと当時疑問に思った。言われるがままに十一円払って家に帰って母に聞いてみた。その時「税金」を初めて知った。中学生になって、税金はどういう物かはだいたい分かるようになった。僕は、税金とは僕たちの生活をより良くするための皆の助け合いだと思う。

しかし、そんな税金でももちろん良いことだけではない。

日本には、約五十種類の税金がある。正直、大人になって払わないといけない税金がふえるのは嫌だ。現在でも、「円安」「ウクライナ侵攻」など、様々な要因で税金が上がってきている。その度に税金の印象が悪くなり税金の良さを見失ってきていると僕は思う。そのような人には、一度税金の無い世界を想像してみてください。

税金は、例えば僕たちの教科書に使ったり、街をきれいにしたりと、僕達が安心して大人になったり、様々な公共サービスを利用したり、働けなくなっても暮らせるようにするなど、どんな年齢の人でもよりよい生活ができるためにあるのだと僕は思う。

もしなくなったら、必ず不便さや悩みが増えると思う。僕たちが、今税金を使って学校に行っているように、皆子どもの時に大人がはらっていた税金を使っている。

そして、これからも多くの税金を使っていくので負担はかかるとは思うけど、必ず社会の役に立つと信じている。このように、「税金」には、様々なメリット、デメリットがある。僕は、「税金」について考えてみて、皆の生活をよくするだけのものではなく、国民全員が、次の世代、未来に引き継ぐ「財産」だと思う。僕たちの今は、先達者が残してくれた財産があつてこそ成り立っているのだと思う。

僕たちが大人になったら当然その時が何よりも大切だ。でも、少し次の人のことを考えて、僕たちがやってもらったように次は、僕たちがしてあげる番だと思って「税金」を払っていけるような社会になればいいと思う。